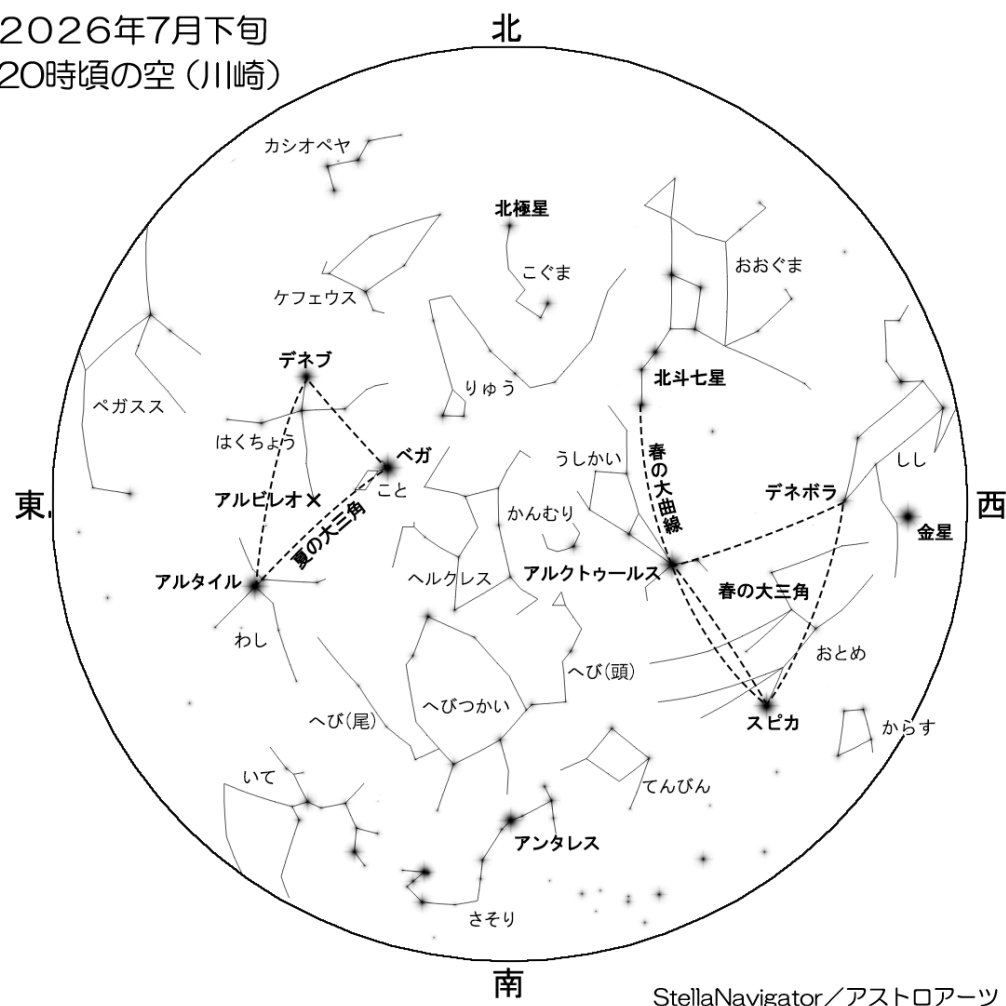


星を見るタベ

2026年7月25日（土）

*このリーフレットは科学館天文サポーターの協力により作成しています。

2026年7月下旬
20時頃の空（川崎）



2026年7月の星空

7月の星空は、春から夏へと季節の移り変わりが感じられます。北斗七星からアルクトゥールス、スピカへと続く「春の大曲線」が西の空に移り、春の星座たちは見納めの時期を迎えています。代わって、東の空には、ベガ・アルタイル・デネブを結ぶ「夏の大三角」が昇り、夏の星座がひろがってきています。

南の空には、赤く輝くアンタレスを中心としたS字に連なるさそり座が見頃です。さそり座の周辺には天の川が流れ、空の暗い場所では星々が無数に輝く美しい眺めを楽しむことができます。

宵の西空では金星がひととき明るく輝きますが、21時ごろには沈んでしまい、その後は夏の星座が主役の星空となります。

夏休みのお出かけや旅行の際には、ぜひ街明かりの少ない場所で夜空を見上げてみてください。普段は気づかないほどたくさんの星々が輝く、夏ならではの雄大な星空に出会えるかもしれません。

これからの天体現象

●注目現象

- 8月 2日 水星が西方最大離角（日の出前に東の低空で見つけやすい）
- 7日 立秋（太陽の黄経が135度になる）
- 13日 ペルセウス座流星群が極大（前後数日が好機）
- 15日 金星が東方最大離角（9月下旬頃まで宵の明星として輝く）
- 19日 伝統的七夕（旧暦7月7日）
- 21日 月がアンタレスに接近

●月の満ち欠け

7月	29日	満月	8月	13日	新月
8月	6日	下弦	8月	20日	上弦

2026 年 7 月の観望天体（予定）

【月】

2026 年 7 月 25 日の月は月齢 11。光と影の境目にあるクレーターが立体的に観察できる条件です。

有人による着陸を目指す「アルテミス計画」で注目されています。計画名の「アルテミス」はギリシャ神話の月の女神の名前と言われています。月には、英語の「ムーン」、独語の「モンド」、ラテン語の「ルナ」、さらにフランス語では「リュヌ」、中国由来の「太陰（たいいん）」などさまざまな呼び方があります。

ほかの国ではどのように呼ばれているか、調べてみてはいかがでしょうか

【アルビレオ（二重星）】

はくちょう座のくちばしにあたる 3 等星で、望遠鏡では 2 つの星が並んで見える二重星です。色の対比が美しいことでよく知られています。長年、この 2 つの星が互いの重力で結びついた「連星」なのか、それとも偶然同じ方向に見えているだけの「見かけの二重星」なのか議論されてきました。近年の高精度な観測により、現在では見かけの二重星である可能性が高いと考えられています。

トピック【へびつかい座】

へびつかい座という星座をご存知でしょうか。ちょうど初夏の南の空に見える星座で、さそり座を踏みつけるように描かれています。ギリシャ神話に登場する名医アスクレピオスの姿とされており、2 世紀ごろギリシャで編集された「プトレマイオスの 48 星座」にも含まれるよく知られた星座です。アスクレピオスはアポロンの息子で、死者まで蘇生させたことにより大神ゼウスの怒りを買い、天に上げられたとされています。へびは、脱皮を繰り返す姿から「再生と治癒」の象徴とされています。へびが巻き付いた「アスクレピオスの杖」は、国連の世界保健機構（WHO）のシンボルマークにもなっています。

へびつかい座は、へびを持ったアスクレピオスの姿として描かれ、その頭には 2 等星のラスアルハゲ（「へびを持つ者の頭」の意）が輝いています。夏の大三角のベガとアルタイルを結んで南側に折り返すとその頂点にあり、見つけることができます。へびつかい座は大きなおにぎり型の五角形で、へび座の頭部が西側に尾部が東側にくっついています。これにより、へび座は 1 つの星座で領域が 2 つに分かれた不思議な星座になっています。星座絵ではへび座とへびつかい座は一緒に描かれていることが多いでしょう。



次回は

8 月 8 日（土）アルビレオ（二重星）・こと座 ε 星（ダブルダブルスター）
22 日（土）月・アルビレオ（二重星）

受付時間：18:45～19:00

先着順で整理券を配布します。

プラネタリウムでの解説の後、番号順にアストロテラスへ案内し、望遠鏡で観察していただきます。

※雨天・曇天等観察が難しいと予想される場合は中止。

（開催の有無は、当日 15 時に当館 HP・X でお知らせします。）

星を見るタベ
の感想をぜひご記入ください。
（所要時間 1～2 分程度）



かわさき
と緑の科学館
Kawasaki Municipal Science Museum
サイエンスブリッジ

ぷりんのひとことメモ



みんなは、おばけって見たことある？
夜空の星の光には、何千年もかけて地球にやってくるものがあるんだ。
もしかしたら、今はもう消えたり姿を変えたりしている星の光が届いているのかも。おばけみたいだね。

最新の科学館の情報は
ホームページ・SNS を
ご確認ください。

公式ホームページ

